



Sub1/Sub2

Powered Bass Modules

取扱説明書

安全上の留意項目および使用方法をよく読み、いつでも参照できるように保管してください。

安全上の重要な注意事項

CE Bose Corporation hereby declares that this product is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 2014/53/EU and all other applicable EU directive requirements. The complete declaration of conformity can be found at: www.Bose.com/compliance.

- このガイドをよくお読みください。
- 必要な時にご覧になれるよう、本書を保管してください。
- すべての注意事項に留意してください。
- すべての指示に従ってください。
- この製品を水の近くで使用しないでください。
- 清掃の際は乾いた布を使用してください。
- 通気孔は塞がないでください。製造元の指示に従って設置してください。
- ラジエータ、暖房送風口、ストーブ、その他の熱を発生する装置（アンプを含む）の近くには設置しないでください。
- 極性プラグを使用する場合、極性プラグや接地極付きプラグの安全機能を損なうような使い方はしないでください。極性プラグには2つの端子があり、片方の端子がもう一方の端子よりも幅が広がっています。また、接地極付きプラグには2つの端子に加え、接地用のアース棒が付いています。極性プラグの広い方の端子および接地極付きプラグのアース棒は、お客様の安全を守る機能を果たします。製品に付属のプラグがお使いのコンセントに合わない場合は、電気工事業者などにご相談ください。
- 電源コードが踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。特に電源プラグやテーブルタップ、機器と電源コードの接続部などにはご注意ください。
- 必ず製造元より指定された付属品、あるいはアクセサリのみをご使用ください。
-  メーカーが指定する、または製品と一緒に購入されたカート、スタンド、三脚、ブラケット、または台のみをご使用ください。カートを使用する場合、製品の載ったカートを移動する際には転倒による負傷が起きないように十分注意してください。
- 雷雨時や長期間使用しない場合は、電源プラグを抜いてください。
- 修理が必要な際には、カスタマーサービスにお問い合わせください。製品に何らかの損傷が生じた場合、例えば電源コードやプラグの損傷、液体の侵入や内部への異物の落下、雨や水蒸気との接触、動作の異常、製品本体の落下などの際には、直ちに電源プラグを抜き、修理をご依頼ください。

警告／注意



この表示は、製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の原因となる可能性があることをお客様に注意喚起するものです。



この記号は、このガイドに製品の取り扱いとメンテナンスに関する重要な項目が記載されていることを示します。



のどに詰まりやすい小さな部品が含まれています。3歳未満のお子様には適していません。



この製品には磁性材料が含まれています。体内に埋め込まれている医療機器への影響については、医師にご相談ください。



標高2000 mを超える高地での使用には適していません。



この記号は、ポールマウントの使用時に転倒の危険があることを示します。



Sub1/Sub2の電源入力部のスライドカバーは、変更、改造、取り外しをしないでください。製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の原因となる可能性があります。

- Sub1/Sub2のポールマウント用M20ねじ込みインサートは、ポールにBose S1 Proをマウントした状態で、最大1.3 mのポールをサポートできるように設計されています。Sub1/Sub2は、高さが1.3 mを超えるポールや、重量が71 kgを超えるスピーカーには使用しないでください。これらの制限値を超えるポール/スピーカーの組み合わせや、不安定なマウントシナリオを作成すると、怪我の原因になる可能性があります。
- 許可なく製品を改造しないでください。

- 車内や船上などで使用しないでください。
- 使用中は、製品を壁のくぼみや締め切ったキャビネットなどの中に置かないでください。
- 火気や熱源などの近くで使用しないでください。火の付いたろうそくなどの火気を製品の上や近くに置かないでください。
- 火災や感電を避けるため、雨の当たる場所や液体のある場所、湿度の高い場所で製品を使用しないでください。
- 水漏れやしぶきがかかるような場所でこの製品を使用しないでください。また、花瓶など、液体が入った物品を製品の上や近くに置かないでください。
- インバータ電源は使用しないでください。
- プラグを主電源コンセントに接続する前にアース接続を行うか、コンセントに保護アース接続が組み込まれていることを確認してください。
- 万が一の事故や故障に備えるために、よく見えて手が届く位置にあるコンセントに電源プラグを接続してください。

規制に関する情報

The product, in accordance with the Ecodesign Requirements for Energy Related Products Directive 2009/125/EC, is in compliance with the following norm(s) or document(s): Regulation (EC) No. 1275/2008, as amended by Regulation (EU) No. 801/2013.

Required Power State Information	Power Modes	
	Standby	Networked Standby
Power consumption in specified power mode, at 230V/50Hz input	≤ 0.5 W	N/A*
Time after which equipment is automatically switched into mode	4 hours	N/A*
Power consumption in networked standby if all wired network ports are connected and all wireless network ports are activated, at 230V/50Hz input	N/A*	
Network port deactivation/activation procedures. Deactivating all networks will enable standby mode.	*Product does not utilize a networked standby mode for a Bluetooth® connection and does not have the ability to be configured to a network via Wi-Fi® or Ethernet	

	Sub1	Sub2
Dimensions (H × W × D)	53.0 × 25.0 × 53.0 cm (20.9 × 9.8 × 20.9 in)	69.0 × 30.5 × 55.0 cm (27.2 × 12.0 × 21.7 in)
Net Weight	16.1 kg (35.5 lb)	23.4 kg (51.7 lb)
Input Rating	100–240 VAC, 3 A, 50/60 Hz	100–240 VAC, 4 A, 50/60 Hz
Initial turn on inrush current	14.9 A at 120 V; 29.3 A at 230 V	15.2 A at 120 V; 28.6 A at 230 V
Inrush current after AC mains interruption of 5 s	5.8 A at 120 V; 32.0 A at 230 V	2.6 A at 120 V; 6.1 A at 230 V

Shielded cables are required to maintain regulatory compliance.

The product label is located on the bottom of the product.

Model: 431389G1 / 431389G2. The CMIIT ID is located on the bottom of the product.

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

Information About Products That Generate Electrical Noise (FCC Compliance Notice for US)

NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.

- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Changes or modifications not expressly approved by Bose Corporation could void the user's authority to operate this equipment.

This device complies with part 15 of the FCC Rules and with ISED Canada's license-exempt RSS standard(s). Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.



This symbol means the product must not be discarded as household waste, and should be delivered to an appropriate collection facility for recycling. Proper disposal and recycling helps protect natural resources, human health, and the environment. For more information on disposal and recycling of this product, contact your local municipality, disposal service, or the shop where you bought this product.

中国で制限されている有害／危険物質一覧

有害／危険物質または成分の名称および含有に関する情報						
有害／危険物質および成分						
各部の名称	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミウム (Cd)	六価クロム (Cr(VI))	ポリ臭化ビフェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニルエーテル (PBDE)
基板	X	0	0	0	0	0
金属部分	X	0	0	0	0	0
プラスチック部分	0	0	0	0	0	0
スピーカー	X	0	0	0	0	0
ケーブル	X	0	0	0	0	0
この表は、SJ/T 11364の規格に沿うように作成されています。 0: 該当部分のすべての素材に含まれる有害／危険物質が GB/T 26572の制限要件を下回っていることを示します。 X: このパーツに使用されている種類以上の均質物質に含まれている当該有害／危険物質が、GB/T 26572の制限要件を上回っていることを示します。						

台湾で制限されている有害／危険物質一覧

機器名: Sub1/Sub2、型式: 431389G1/431389G2						
制限される物質および化学記号						
ユニット	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミウム (Cd)	六価クロム (Cr+6)	ポリ臭化ビフェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニルエーテル (PBDE)
基板	-	0	0	0	0	0
金属部分	-	0	0	0	0	0
プラスチック部分	0	0	0	0	0	0
スピーカー	-	0	0	0	0	0
ケーブル	-	0	0	0	0	0
注1: 「0」は制限物質の含有率が存在の基準値の比率を超過していないことを示します。 注2: 「-」は制限物質が除外の対象であることを示します。						



製造日: シリアル番号の8桁目の数字は製造年を表します。「0」は2010年または2020年です。

中国における輸入元: Bose Electronics (Shanghai) Company Limited, Part C, Plant 9, No. 353 North Ruyi Road, China (Shanghai) Pilot Free Trade Zone

EUにおける輸入元: Bose Products B.V., Gorslaan 60, 1441 RG Purmerend, The Netherlands

メキシコにおける輸入元: Bose de México, S. de R.L. de C.V., Paseo de las Palmas 405-204, Lomas de Chapultepec, 11000 México, D.F. For service or importer information, call +5255 (5202) 3545

台湾における輸入元: Bose Taiwan Branch, 9F-A1, No. 10, Section 3, Minsheng East Road, Taipei City 104, Taiwan. Phone Number: +886-2-2514 7676

Bose Corporation Headquarters: 1-877-230-5639

Wi-Fiは、Wi-Fi Alliance®の登録商標です。

Bose, L1、およびSubMatchは、Bose Corporationの商標です。

その他すべての商標は所有権を保持する各社に帰属します。

BoseのプライバシーポリシーはBoseのWebサイトをご覧ください。

©2020 Bose Corporation. 本書のいかなる部分も、書面による事前の許可のない複写、変更、配布、その他の使用は許可されません。

控えとして、製品の情報を以下の欄にご記入ください。

シリアル番号とモデル番号は、製品の底面にある製品ラベルに記載されています。

シリアル番号: _____

モデル番号: _____

保証情報

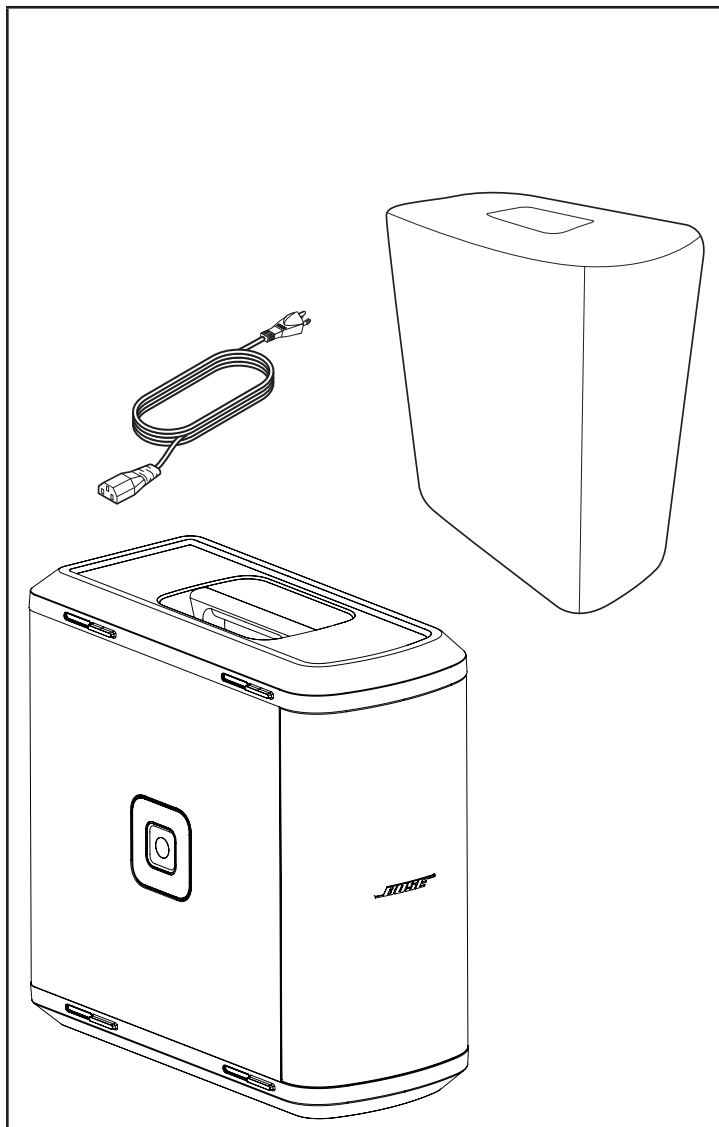
保証の内容および条件につきましては、付属の保証書をご覧ください。
保証の詳細については、global.bose.com/warrantyをご覧ください。

概要	5
同梱物	5
オプションのアクセサリ	5
セットアップ	6
接続とコントロール	6
電源の接続	7
電源コンセントへの直接接続	7
SubMatchケーブルを使用したL1 Pro32への接続	8
自動オフ/省電力スタンバイ	8
入出力端子	9
ライン入力	9
ライン出力	9
設定	9
フェイズ/パターン	9
レベル	10
ライン入力EQ	10
ライン出力EQ	10
Sub1/Sub2の方向	10
S1 Proとのポールマウント用インサートの使用	11
お手入れについて	12
ベースモジュールの清掃	12
トラブルシューティング	12

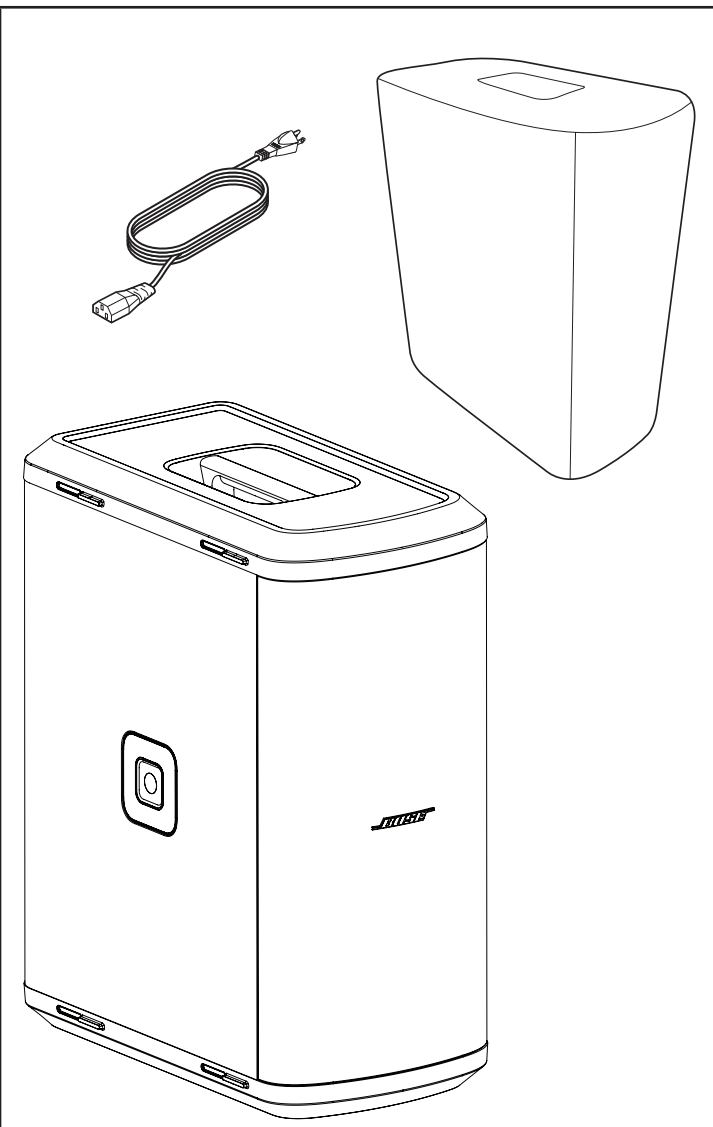
概要

同梱物

Sub1



Sub2



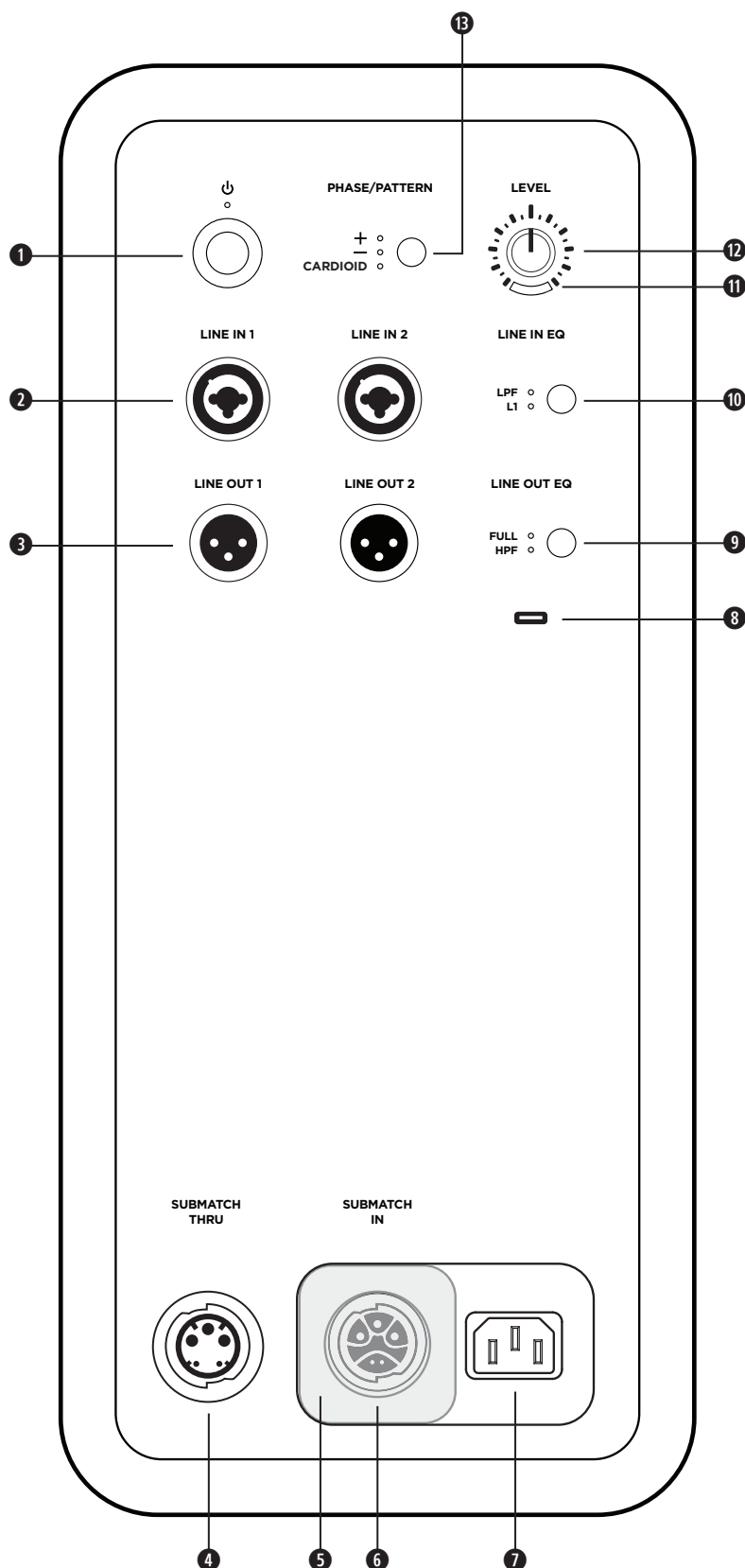
オプションのアクセサリー

- Sub1/Sub2 Roller Bag
- Sub1/Sub2 Adjustable Speaker Pole
- SubMatch Cable

Sub1/Sub2のアクセサリーについての詳細は、**PRO.BOSE.COM**をご覧ください。

セットアップ

接続とコントロール



- 1 スタンバイボタン:** ボタンを押してベースモジュールの電源をオンにします。ベースモジュールの電源がオンになると、LEDが白く点灯します。
- 2 ライン入力:** L1 Proまたはその他のラインレベル音源を接続するアナログ入力です。XLR/TRS バランスケーブル、またはTSアンバランスケーブルに対応しています。
- 3 ライン出力:** XLRケーブルを使用して、スピーカーにラインレベル出力を接続します。
- 4 SubMatchスルーポート:** SubMatchケーブルを使用して、追加のベースモジュールを接続します。SubMatch接続では、1台のL1 Pro32から最大2台のSub1/Sub2 Powered Bass Moduleに電源を供給できます。
- 5 電源入力カバー:** SubMatch入力と電源入力の同時使用を防ぎます。カバーをスライドすると、セットアップに必要な電源入力があります。
- 6 SubMatch入力:** SubMatchケーブルを使用して、ベースモジュールをL1 Pro32に接続します。
- 7 電源入力:** IEC電源コードを接続します。
- 8 USBポート:** ボーズのサービスおよびファームウェアの更新に使用するUSB-Cコネクターです。
注: このポートはThunderbolt 3ケーブルには対応していません。
- 9 ライン出力EQ:** ライン出力の使用時に、全帯域または多目的のHPFのいずれかを選択します。ボタンを押してEQ設定を切り替えます。選択中は対応するLEDが白く点灯します。
- 10 ライン入力EQ:** ライン入力の使用時に、L1 Proに最適化されたEQまたは多目的のLPFのいずれかを選択します。ボタンを押してEQ設定を切り替えます。選択中は対応するLEDが白く点灯します。
- 11 シグナル/クリップインジケータ:** 信号を受けている場合はLEDが緑に点灯し、信号がクリップしたり、リミッターが適用されると赤く点灯します。チャンネルまたは信号の音量を下げることで、信号のクリッピングやリミッターの適用を防ぐことができます。
- 12 レベルコントロール:** オーディオ出力のレベルを調節します。レベルコントロールはライン出力には影響しません。L1 Pro32と使用する際には、12時の位置に設定することをお勧めします。
- 13 フェイズ/パターンボタン:** ベースモジュールの極性を切り替えます。ボタンを押して極性を切り替えます。選択中は対応するLEDが白く点灯します。2台の同じベースモジュールを使用する際には、カーディオイドモードを使用することもできます。

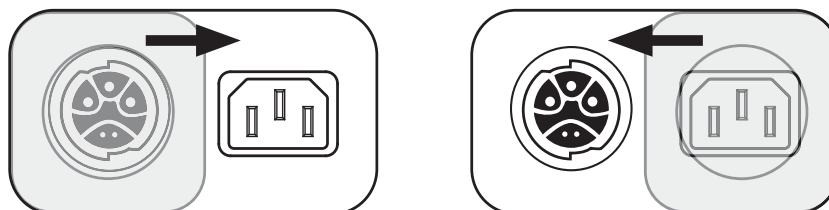
電源の接続

ベースモジュールを電源に接続するには、2つの方法があります。コンセントに接続するか、SubMatchケーブルを使用してL1 Pro32に接続します。**電源入力カバー**は、両方の電源入力に同時に接続されるのを防ぎます。一度に2つの電源接続のうち一方のみを使用するようにしてください。

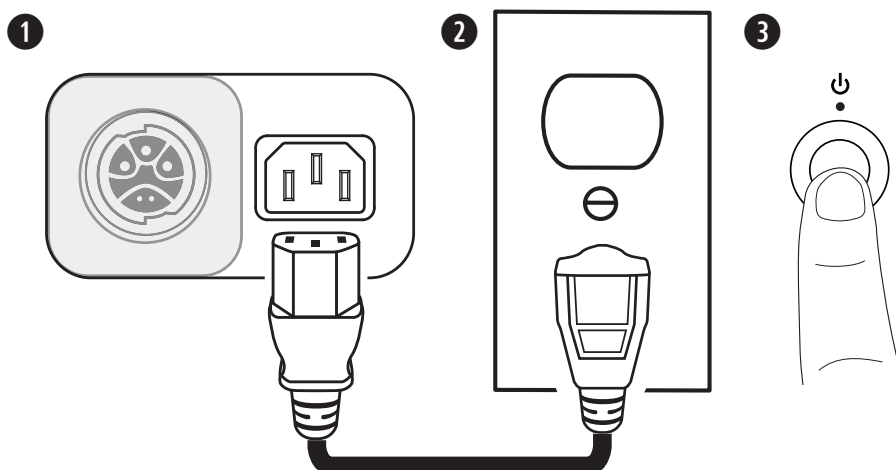
電源コンセントに直接接続する場合は、**電源入力カバー**を左にスライドさせてSubMatch入力が隠れるようにします。SubMatchケーブルを使用してL1 Pro32に接続する場合は、**電源入力カバー**を右にスライドさせて**電源入力**が隠れるようにします。



警告: Sub1/Sub2の電源入力部のスライドカバーは、変更、改造、取り外しをしないでください。製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の原因となる可能性があります。

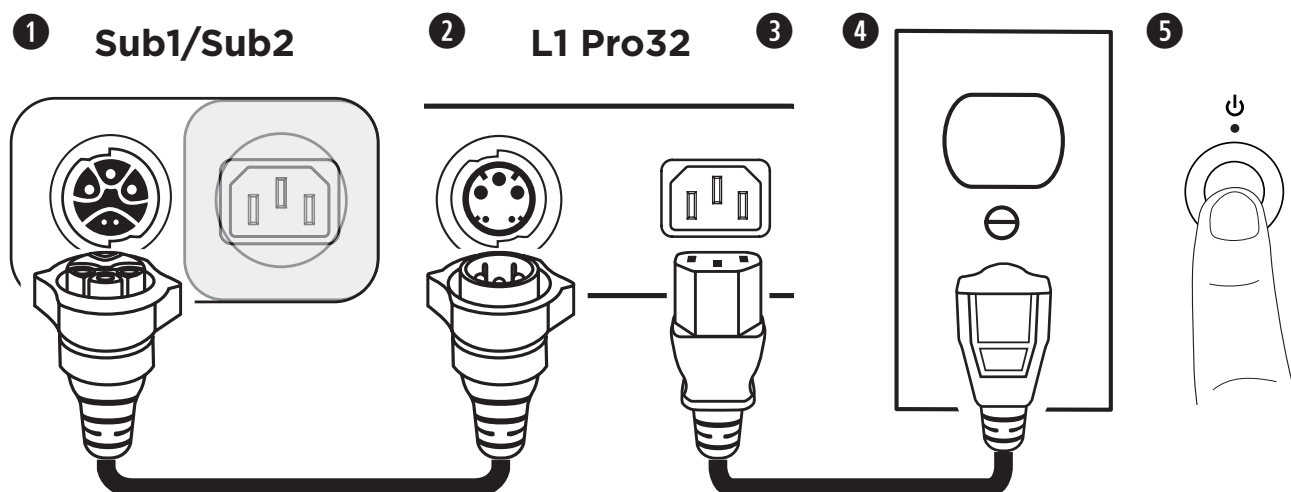


電源コンセントへの直接接続



1. 電源コードを**電源入力**に接続します。
 2. 電源コードのもう一方を、電源コンセントに差し込みます。
- 注:** ソースを接続するまでは、ベースモジュールの電源をオンにしないでください。
3. **スタンバイボタン**を押します。ベースモジュールの電源がオンになると、LEDが白く点灯します。

SubMatchケーブルを使用したL1 Pro32への接続



1. SubMatchケーブルを、Sub1/Sub2の**SubMatch入力**に接続します。
2. SubMatchケーブルのもう一方を、L1 Pro32の**SubMatch出力**に接続します。
3. 電源コードをL1 Pro32の**電源入力**に差し込みます。
4. 電源コードのもう一方を、電源コンセントに差し込みます。

注: ソースを接続するまでは、L1 Proまたはベースモジュールの電源をオンにしないでください。ソースのL1 Pro32への接続の詳細については、**PRO.BOSE.COM**でL1 Pro32の取扱説明書を参照してください。

5. L1 Pro32の**スタンバイボタン**を押してから、ベースモジュールの**スタンバイボタン**を押します。L1 Proとベースモジュールの電源がオンになると、LEDが白く点灯します。

注: **スタンバイボタン**を10秒間長押しすると、ベースモジュールを工場出荷時の状態にリセットできます。

SubMatchケーブル接続で2台のベースモジュールを使用する場合は、L1 Pro32に直接接続されているベースモジュールの電源を最初にオンにしてから、2台目のベースモジュールの電源をオンにします。

自動オフ/省電力スタンバイ

4時間以上使用されない場合、電力を節約するため、ベースモジュールは自動オフ/省電力スタンバイモードになります。ベースモジュールの自動オフ/省電力スタンバイモードを解除するには、**スタンバイボタン**を押します。

注: **フェイズ/パターンボタン**と**ライン出力EQボタン**を同時に10秒間長押しすることで、自動オフ/省電力スタンバイモードを解除できます。この手順を繰り返すことで、自動オフ/省電力スタンバイモードを有効化できます。自動オフ/省電力スタンバイモードを解除すると、ベースモジュールを使用していない時の消費電力が高くなります。

入出力端子

ライン入力

L1 Proまたはその他のラインレベル音源を接続するアナログ入力です。XLR/TRSバランスケーブル、またはTSアンバランスケーブルに対応しています。ステレオ用途では、**ライン入力1(左)**と**ライン入力2(右)**を同時に使用します。

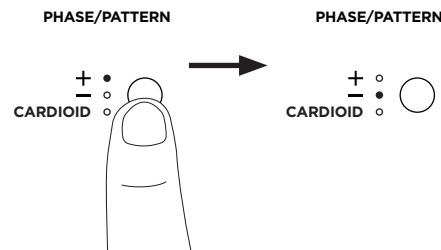
ライン出力

XLRケーブルを使用して、スピーカーにラインレベル出力を接続します。ステレオ用途では、**ライン出力1(左)**と**ライン出力2(右)**を同時に使用します。

設定

フェイズ／パターン

ベースモジュールの極性を切り替えます。ボタンを押して、プラス極性(+)と逆極性(-)を切り替えます。選択中は対応するLEDが白く点灯します。用途に最適なサウンドが得られる極性を選択してください。



カーディオイドモード

カーディオイドモードは、2台の同じSubモジュールを積み上げて使用するための機能です。このモードでは、ベースモジュールのスタックの後方で生成されるサウンドのエネルギーを抑制する一方で、サウンドのエネルギーの大部分をスタックの前方に集中させます。ボタンを4秒間長押しすると、「**CARDIOID**」(カーディオイド)を選択できます。選択中はLEDが白く点灯します。再度長押しすると、「+」に戻すことができます。カーディオイドモードは、2台の同じベースモジュールを積み上げて使用する際にのみ使用してください。この時、上に設置するベースモジュールをカバレッジエリアに、下に設置するベースモジュールをカバレッジエリアと反対に、それぞれ向けて配置してください。上に設置するスピーカーのフェイズ／パターンを「+」に、下に設置するスピーカーのフェイズ／パターンを「**CARDIOID**」(カーディオイド)にそれぞれ設定します。カーディオイドモードで構成したベースモジュールのスタックのレベルを調節する際には、両方のベースモジュールのレベルコントロールが同じ位置に設定されていることを確認してください。ベースモジュールのスタックの方向とカバレッジパターンについては、以下の図を参照してください。

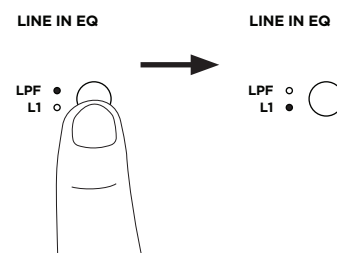
カーディオイドスタック構成	カバレッジパターン(上面図)	
	カーディオイドモード: オフ	カーディオイドモード: オン

レベル

ベースモジュールのオーディオ出力のレベルを調節します。レベルコントロールが低い設定から始め、シグナル／クリッピングインジケータが緑に点灯するまでレベルを上げていきます。レベルコントロールはライン出力には影響しません。L1 Pro32と使用する際には、12時の位置に設定することをお勧めします。1台のL1 Proに2台のベースモジュールを使用している場合は、両方のベースモジュールのレベルコントロールを同じ位置に設定することをお勧めします。

ライン入力EQ

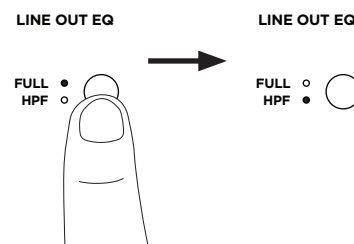
使用するEQに対応するLEDが白く点灯するまでライン入力EQボタンを押して、両方のライン入力のEQを変更できます。L1 Pro製品に最適化された入力EQを適用するには、「L1」を使用します。入力にローパスフィルターを適用するには、「LPF」を使用します。SubMatchケーブルを使用してベースモジュールをL1 Pro32に接続している場合は、ライン入力EQは「L1」に固定されます。



ライン出力EQ

使用するEQに対応するLEDが白く点灯するまでライン出力EQボタンを押して、両方のライン出力のEQを変更できます。全帯域を使用するには「FULL」を使用し、出力にハイパスフィルターを適用するには「HPF」を使用します。

注: S1 Proとベースモジュールを使用している場合は、ライン出力EQボタンを4秒間長押しして、S1 Pro用に最適化されたEQを有効化できます。「HPF」のLEDが緑に点灯します。S1 Pro用のEQを無効化するには、ボタンを4秒間長押しします。



Sub1/Sub2の方向

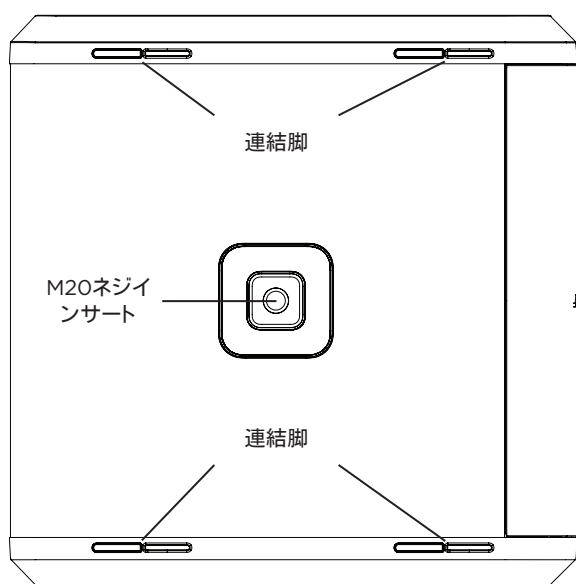


警告: 機器を不安定な場所に置かないでください。機器が安定した場所に配置されていないと、危険な状態につながり、けがの原因になることがあります。

注意: 2台以上のベースモジュールを積み上げて使用しないでください。同じモデルのベースモジュールのみを積み上げるようにしてください。

横に並べて使用する場合は、ロゴを回転させて調整してください。

積み上げて使用する場合は、ベースモジュールの4つの脚部を連結して、同じモデルのベースモジュールを積み上げることができます。ベースモジュールを横に並べて連結する場合は、電源やソースに接続する前に、脚部が連結されていることを常に確認してください。

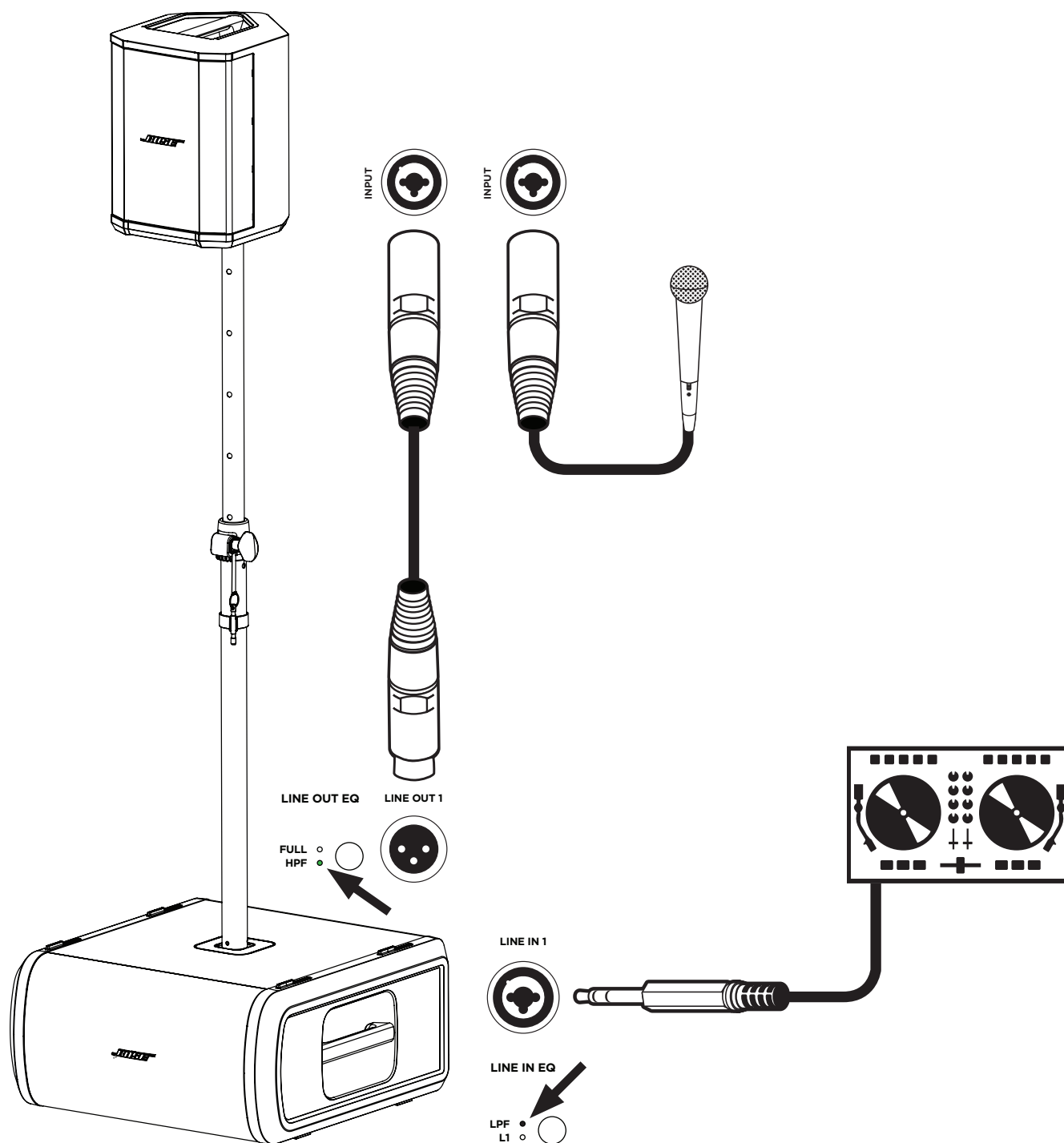


S1 Proとのポールマウント用インサートの使用



警告: Sub1/Sub2のポールマウント用M20ねじ込みインサートは、ポールにBose S1 Proをマウントした状態で、最大1.3 mのポールをサポートできるように設計されています。Sub1/Sub2は、高さが1.3 mを超えるポールや、重量が7.1 kgを超えるスピーカーには使用しないでください。これらの制限値を超えるポール/スピーカーの組み合わせや、不安定なマウントシナリオを作成すると、怪我の原因になる可能性があります。危険です。

Sub1/Sub2は、ポールマウント用M20ネジインサートを備えています。インサートはボーズのSub1/Sub2 Adjustable Speaker Poleアクセサリーに対応しており、Bose S1 Proシステムと使用するために設計されています（詳細については、**PRO.BOSE.COM**でAdjustable Speaker Poleの取扱説明書を参照してください）。



お手入れについて

ベースモジュールの清掃

必ず乾いた柔らかいクロス(布)を使用して、製品本体を拭いてください。必要な場合は、ベースモジュールのグリルを掃除機で掃除してください。



注意: 溶剤、化学薬品、またはアルコール、アンモニア、研磨剤などを含むクリーニング液は使用しないでください。

注意: 製品の近くでスプレーを使用しないでください。また開口部に液体をこぼさないでください。

トラブルシューティング

問題	確認いただく項目
電源が入らない	- お使いのACコンセントに電源がきているか確認します。ACコンセントに照明器具や他の機器を接続して動作するか試してください。ACコンセントテスターをお持ちの場合は、テスターを使ってコンセントの状態を確認してください。 - SubMatchケーブルを使用してL1 Pro32から電源を供給している場合は、L1 Pro32の電源がオンになっており、L1 Pro32の自動オフ/省電力スタンバイモードが解除されていることを確認してください。
音が出ない	- ベースモジュールの電源が入っていることを確認して下さい。 - ソースがライン入力に接続されていることを確認してください。 - お使いのソースの音量が上がっていることを確認してください。 - ベースモジュールのレベルコントロールが上がっていることを確認してください。 - ベースモジュールが自動オフ/省電力スタンバイモードになっていないことを確認してください。
スタンバイLEDが赤く点滅している(温度異常)	- ベースモジュールの電源をオフにし、30分待ってから再度電源をオンにしてください。 - ベースモジュールをより涼しい場所に移動させてください。 - ベースモジュールをより通気の良い場所に移動させてください。
スタンバイLEDが赤く点灯している(システム異常)	ボーズカスタマーサービスへお問い合わせください。次のサイトをご参照ください: worldwide.Bose.com/contact
ベースモジュールに何も接続されていない状態で、小さな雑音やノイズが聞こえる	- ACコンセントテスターを使用して、ACコンセントの反転またはオープン(ホット、ニュートラル、またはグラウンド)コンタクトをテストしてください。 - 延長コードを使用している場合は、ベースモジュールをコンセントに直接差し込んでみてください。
オーディオソースの音が歪んでいる	- ソースの音量を下げてください。 - レベルコントロールを下げてください。 - 別のソースを試してください。
複数のユニットをデジーチェーン接続するとひどいハムノイズが発生します	デジーチェーン接続された機器のレベルが高すぎる設定になっていないことを確認してください。



853574-0010

©2020 Bose Corporation, All rights reserved.
Framingham, MA 01701-9168 USA
www.Bose.com
AM853574 Rev. 01
2020年10月

